

ワールドカップサッカー南アフリカ大会は 日本に何を遺したか

聴講無料

スポーツジャーナリスト

中西哲生

TETSUO NAKANISHI



写真家
ノンフィクションライター

宇都宮徹壺

TETSUICHI UTSUNOMIYA



サッカージャーナリスト

後藤健生

TAKEO GOTO



NHKチーフアナウンサー
解説委員

内山俊哉

TOSHIYA UCHIYAMA



日時：2010年10月20日(水) 16:35-18:30

場所：専修大学生田校舎10号館 10301教室

講師：

内山 俊哉 氏 (NHKチーフアナウンサー)

中西 哲生 氏 (元Jリーガー、スポーツジャーナリスト)

後藤 健生 氏 (サッカージャーナリスト、関西大学客員教授、他)

宇都宮 徹壺 氏 (写真家・ノンフィクションライター)

飯田 義明 (社会体育研究所・経済学部教授／トータルコーディネーター)

協力 大塚製薬株式会社

主催 専修大学社会体育研究所 sports@isc.senshu-u.ac.jp 044-911-1032



2010 FIFA WORLD CUP SOUTH AFRICA™

ワールドカップサッカー南アフリカ大会は日本に何を遺したか

サッカーワールドカップに臨む日本代表チームは、国民からは明らかに期待をされていなかった。南アフリカという日本からの遠隔地であること、その南アフリカの治安への不安という否定的条件はあったとはいえ、ワールドカップ前の各大会や強化試合での結果が大きな要因となって、国民の興味は薄れつつある中、日本代表はワールドカップに向かった。

しかし、第一戦を終えて、国民の期待は大きく変化する。カメルーン戦に勝利したところからメディアからサッカーの話題が途切れなくなり、オランダでの善戦によって注目度は最大に達し、デンマーク戦の大勝後には国内全体がワールドカップに熱狂することとなった。テレビの視聴率は跳ね上がり、ブルーのユニフォームを着た若者が街に溢れた。日本代表チームの帰国では、数千名のサポーターが空港に押し寄せた。このことは、“スポーツの力”を改めて認識する事例となったのは間違いない。

南アフリカで行われた大規模国際競技大会は、今回の大会で2回目である。最初の大会は1995年に開催されたラグビーのワールドカップであった。南アフリカではその前年に黒人初の大統領であるネルソン・マンデラ氏が誕生しており、ラグビーのワールドカップの開催と優勝は、永く続いたアパルトヘイトから脱却し、白人と黒人の和解と団結を示す象徴的な国際的なセレモニーとなり得た。本年のサッカーワールドカップのレガシーとして、人種差別を克服した南アフリカの隆盛の後押しや、国際的視点からみたアフリカ大陸のこれからの発展が期待されていたことは言うまでもない。

それでは、日本において本大会はどのようなレガシーを残したのだろうか。国民の熱狂は、これからの日本においてどのような意味を持つのだろうか。国際的視点から、日本はどのように評価されることになったのだろうか。現在、昨年9月に発足した「2022年FIFAワールドカップ日本招致委員会」によって、サッカーワールドカップの日本招致活動が行われている現状もある。そこで本シンポジウムでは、サッカーワールドカップ南アフリカ大会とその後に焦点をあて、スポーツのもたらすレガシーについて考えていく。(トータルコーディネーター；飯田義明経済学部教授)

———講師———



中西哲生 (なかにしてつお) 氏 スポーツジャーナリスト

1969年、愛知県生まれ。同志社大学経済学部卒業。1992年、名古屋グランパスエイトに入団。1995年シーズンには、アーセン・ベンゲル監督の下、天皇杯を獲得。1997年に川崎フロンターレに移籍し、1999年にはキャプテンとして、チームのJ2優勝・J1昇格に貢献する。現役引退後は、スポーツジャーナリストとして活動を開始し、テレビ・ラジオでコメンテーターを務めるほか、全国でサッカー教室を開催する。2008年、(財)日本サッカー協会特任理事に就任。(主な出演番組) TBS「サンデーモーニング」、テレビ朝日「Get Sports」、TOKYO FM (JFN系列)「中西哲生のクロノス」(主な著書)『魂の叫び J2聖戦記』(共著、幻冬舎)、『ベンゲル・ノート』(共著、幻冬舎)、『新・キックバイブル』(幻冬舎)



宇都宮徹吉 (うつのみやてつきち) 氏 写真家・ノンフィクションライター

1966年、東京都出身。東京藝術大学大学院美術研究科修了。TV制作会社勤務を経て、97年よりフリーランスの活動を開始。詳しい履歴については公式HP「徹吉の部屋」を参照のこと (<http://supporter2.jp/utsunomiya/>)。近著『フットボールの犬』(東邦出版)は第20回ミズノスポーツライター賞最優秀賞を受賞。有料個人メールマガジン「徹マガ」を配信中 (http://tetsumaga.sub.jp/tetsumaga_official/)。



後藤健生 (ごとうたけお) 氏 サッカージャーナリスト

1952年東京生まれ。慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了(国際政治)。1964年の東京オリンピックを観戦してから生観戦数は約4500試合。74年西ドイツ大会以来、ワールドカップは10大会連続現地観戦。雑誌等に寄稿するとともに、スカパー!でCLやセリエA解説も。関西大学客員教授。『サッカーの世紀』(文春文庫)など著書多数。近著に『ワールドカップは誰のものか——FIFAの戦略と政略』(文春新書)、『日本代表はなぜ世界で勝てたのか?』(アスキー新書)



内山俊哉 (うちやまとしや) 氏 NHKチーフアナウンサー

1964年佐賀県生まれ。九州大学法学部卒業後、NHK入局。野球、サッカーを中心にスポーツ実況アナウンサーとして長く活躍し、「サンデースポーツ」などの情報番組のキャスターも務めた。ワールドカップは94年アメリカ大会以来、5大会連続して現地でリポートや実況を担当している。2009年4月からはスポーツ担当の解説委員を兼務し、「時論公論」「NHKニュース おはよう日本」「スタジオパークからこんにちは」など各種番組のニュース解説にも出演中。

日 時：平成22年10月20日(水) 16:35~18:05(延長あり)
場 所：専修大学生田校舎10号館10301教室(参加費無料)
向ヶ丘遊園駅(小田急線)北口よりバスで約10分
問い合わせ：社会体育研究所(sports@isc.senshu-u.ac.jp/044-911-1032)

